NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成23年（2011）8月10日
No. 44
発行　高津啓洋

川の水位が低下 洪水止まる

川の水位は７月１５日がピークで、数日停滞して横ばいが続き、２３日から１ｃｍ下がり始めました。身近に見ていたカピバラ家族も、私達の住宅やゲストハウスから引越しするでしょう。

７月２５日、土手が決壊した、という知らせが夜中にあり、総動員で数時間対応し、事なきを得ました。牧童が大きな音がするというので、出てみたところ、羊小屋前の本道を横切って埋められた大型側溝から、逆流して支流の水が入り込んで来ているのを発見しました。

13年ぶりに浸水した第一植樹園

一時的に鶏小屋、第一植樹園などが浸水しましたが、土をトラクターで運び、側溝入口を完全に塞ぎ、浸水した水はポンプで一日がかりで排水し、適切な処理のお陰で、地面は丁度雨が欲しかった時期だけに広範囲な水撒き作業の代わりとなりました。沢山の鳥達がその水辺や草むらに餌を求めてやって来て喜んでいました。

第二農場奥ニーム林も浸水の一歩手前でした

長野ふるさとの森づくりに参加

８月１４日、１５日長野ふるさとの森づくり実行委員会を中心に、長野オリンピックの森検証シンポジュウムと、長野オリンピックの森現地見学会、震災復興記念植樹祭が行われます。高津啓洋理事長は、今回のイベントの副実行委員長になっています。

14日のシンポジウムは、４０年間ふるさとの森づくりを国内、海外1700カ所で4千万本の木を植えてきた、宮脇昭横浜国立大学名誉教授が「人類の未来とふるさとの森づくり」と題して基調講演をします。

15日は、「自然と調和したオリンピック」実現のために植えられた45万本の落葉広葉樹の苗木は今どんな森に生長しているかを確かめるため、4か所の植栽地を巡り、宮脇昭氏が説明解説を聞きながらの、バス移動で巡ります。

その後、終戦記念日に東日本の震災復興、平和と安全を祈って、ブナ、ミズナラ、イタヤカエデなどの落葉広葉樹15種類、1000本のポット苗を植えます。

植樹ボランティア プﾚｼﾞﾃﾞﾝﾄ･ﾌﾗﾝｺ市で開催

８月２４日、成田を出発。ドイツのフランクフルト、サンパウロを経由しアスンションに２５日到着します。

２８日はオリンポ市の中にあるインディヒナ村で植樹活動と子供達との交流、その時、準備した文具と服等をプレゼントします。

２９から３１日はオリンポ市市長、教育委員会、学校と共に農業用地の整備並びに野菜の植え付けをします。

その後、パンタナールエコツアーや世界遺産のイグアスの滝を観光。

4日、今年で東部での植樹キャンペーンは３回目になります。市長をはじめプレジデントフランコ市を上げて行い、植樹推進のＴーシャツも作り、準備する苗木は、私達の所有する育苗所で育てた物を使う予定です。

[お知らせ]今年も、8月24日から植樹ボランティアが出発します。現地学生らとの交流会もあります。9月9日まで植樹支援を受け付けています。